

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200897		
法人名	医療法人社団翌檜会		
事業所名	エルダービレッジグループホーム		
所在地	神戸市北区蘆谷町福谷882番地		
自己評価作成日	2014年 10月 15日	評価結果市町村受理日	2015年 2月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2014年 11月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の状態変化に合わせ、支援内容を修正、変更している(柔軟に対応) ・入居者様の行動に否定的な声かけをせず、話を傾聴するように努めている。 ・皮膚疾患等(水虫等)のある方は、入浴していない日は足浴、部分清拭を行い清潔保持に努めている。 ・入居者様、ご家族、来客者に笑顔で接するよう努力している。 ・ご家族様来居時に近々の状況報告を行い、コミュニケーションを図っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所に隣接した居宅介護支援事業所、老人保健施設、通所介護、クリニックなど、医療法人を母体とした医療的バックアップの充実が、利用者、家族の安心に繋がっている。地域住民が住む地域から少し離れているが、周辺は緑豊かな自然に囲まれ、事業所の前の広々とした公園は、利用者の散策コースにもなっている。「家庭的な楽しみがあり、地域や生活の中に自分の居場所があります」という理念と共に、年度毎、月単位で身近な目標を職員全体で決め、利用者の日々の生活が充実するよう、利用者が主役、職員は常に脇役として支援する姿勢を大事にしている。地理的に地域交流は難しいが、事業所が地域福祉の中核としてより身近な存在になれるよう、職員の持てる力を存分に発揮されることを願っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1階自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を理解した上で、職員間で話し合い業務目標を作成し、毎朝復唱し意識付けを実施している。	事業所の理念と共に、年度毎の業務目標として、今年は「あきらめない心・笑顔」を毎朝職員で復唱している。また月単位でも職員が身近な目標を挙げ、理念が日々の利用者のケアに活かされるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は多くはないが、ボランティアの訪問があり、交流している。	定期的なボランティアとして、コーラス、ドクセラピー、習字、音楽療法等がある。訪問日には、1階と2階の利用者が一同に集い、コーラスのボランティアと懐かしい歌で楽しいひと時を過ごしている。事業所が近隣の住宅地から離れている為、利用者が地域の行事に参加することは難しい。	認知症ケア及びグループホームを、地域住民に、より認知してもらえる機会を、今後も継続して検討していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けてまでは出来ていないが、来訪者、ご家族様に対しては支援方法等、誠実にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人、事業所の運営状況を報告している。出席者よりアドバイスを頂き、話し合い内容を具体化できるよう努めている。	地域包括職員、家族の参加で開催され、利用者の様子、運営状態を報告している。議事録は事業所内で開示されているが、家族が目を通す機会は少ない。家族からは、もっと事業所の地域への周知を、積極的に進めて欲しいとの意見が挙がった。	事業所への理解を地域へ進めて欲しいとの家族の意見を活かす為にも、事業所の取り組みを積極的に紹介してはいかか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情については、担当者に連絡し助言、指導を頂いている。生活保護の方の対応についても相談している。	3か月に一度、西区グループホーム連絡会があり、他事業所、区の担当者とも連絡は密に行われている。生活保護の担当職員の訪問もあり、ケアサービスの説明や相談を行い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が理解しており、身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。	隣接する同法人の老人保健施設主体の研修に参加している。玄関は日中開放し、夜間はオートロックと使い分け、基本、身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。エレベーターは自由に利用できるが、人感センサーで乗り降りだけは確認している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不明な打撲痕等については、全職員で話し合い共有し、適切な支援方法について話し合いをしている。	虐待防止の研修だけでなく、事業所の理念である「尊敬と温かいまなざしで向かいあいます」が日々実践できるよう話し合っている。言葉も、声のトーン、質で利用者が不快になることを職員間で自覚し、管理者も見過ごさないよう注意を払っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利については、施設内に掲示し全ての方に観て頂ける様にしている。	事業所において利用者が安心して過せるよう、権利擁護については掲示している。日常生活支援事業や成年後見制度について、直接職員が学ぶ機会は設けていない。	権利擁護の勉強会を開き、地域包括職員などの協力を得て、制度の勉強会などを開かれてはどうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を頂いている。	契約時に、家族、利用者が心配している事柄を引き出し、十分な説明を行っている。特に、家族にとっては、終身まで過ごすことができるのかが大きな不安材料になっている。事業所として、可能なこと、不可能なことの事例を挙げながら、分かり易く説明をしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書、外部への苦情相談窓口の連絡先を施設内掲示板に掲示している。運営推進会議の議事録をご家族来所持に閲覧出来るようにしている。	気軽に家族が訪問でき、アンケートにもほぼ全員から「家族の困っていること、求めていること等を傾聴してくれるという回答であった。本人の思いや願いをわかってくれている」という意見もあった。ただ面会簿の横にある運営推進会議の議事録は、一部の人がしか読まれていないのではないかと思われる。	運営推進会議の内容をより多くの家族に伝えられるよう、「お便り」の中に記載してはどうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況の情報は、ミーティングを利用し職員へ伝達されている。職員の意見はリーダーミーティング時に管理者へ伝達されている。	リーダーミーティングの時に、現場職員からの意見を代表や管理者に報告している。管理者は、半期に一度の職員との面談や夜勤業務の中で、聞き取るなどの工夫をしている。管理者は、現場の意見が業務の改善に反映できるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者にて職員の状況把握を行い、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供、実践者研修の推奨と参加費用の全額施設負担を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は西区グループホーム連絡会に参加し、相互の情報交換を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境の中での不安を軽減出来る様、密な声かけ、傾聴を行い安心確保出来る関係づくりに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り家族に来所して頂くようお願いし、本人の状態等を説明し、安心して頂く様に努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き話し合いを行い、要望実現が難しい場合は、ご家族に説明、理解して頂き、他の社会資源を活用して頂くようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員との関係以上に、入居者同士の関係作りが出来るように支援している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの内容を説明し、要望を反映できるようにしている。家族との外出を優先的に考慮し計画を立案している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出は出来ていないが、日々の関わりの中で、馴染みの場所や風景を回想できる支援に努めている。	長年の間に馴染みの場所も人との繋がりも変わってしまった。おやつや日々の業務の中で、利用者から昔話や馴染みの人の話を聞き、出来事、風景を思い出す回想法につなげている。結果、利用者の楽しみとなっている。農協への外出で、馴染みの人との再会を楽しむ人もいる。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの位置関係やレクリエーションを通じて入居者同士の関係構築に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が個人的に面会には行っているが、施設からの支援は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向聞き取るように努め、職員間にて話し合い共有している。	日常会話の中で、利用者の思いを把握し、介護計画に反映できるように努めている。また、連絡ノートに利用者が気にしている事柄や訴えを記載して、職員間で課題が共有できるように配慮している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用状況、生活状況等を家族や事業所より情報を得ている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録はカルテ記載し、食事量、排泄、入浴、バイタルなど別紙にて記録、職員間で情報を共有、把握出来る様に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のフロアミーティングに於いて、支援の在り方を話し合い現状を把握し、家族、各セクションに相談の上、支援計画に生かしている。	利用者、家族からの要望を聞きとり、本人が安心して生き生きできる生活を目標に、現場職員と意見を交わし介護計画を作成している。利用者らしさがより活かされるよう、グループミーティングや月1回のフロアミーティングで、プランの見直しを行っている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期間の支援計画に於いては、ケア目標用紙に記入し、ケアプランに生かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対し、臨機応変に対応している。事務作業の手伝い、来客へのお茶出し等。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用までは至っていない。コーラス、ドックセラピー、書道等のボランティアを毎月受け入れている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックにて、内科、整形外科の受診対応。歯科、皮膚科に於いては往診にて対応している。その他受診、検査については家族へ協力して頂いている。	契約時に、基本、母体法人である併設医療機関の定期受診の利用を説明、納得のうえの受診とし、職員が支援している。要望に応じて、歯科、皮膚科の往診も可能である。それ以外の専門医、他科については、家族による付き添いをお願いしている。日常の健康管理の体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師に相談し、処置や受診などの指示を受けている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院が速やかに出来る様、生活、本人の状況を書面にて提供。急変時は主治医からの紹介により入院が出来る体制にある。	転倒に至るリスクに注意しつつ、出来るだけ入院回避に努めている。入院時は早期退院に向け、利用者の安心とともに、可能な事業所での受け入れ準備や退院後の通院も想定し、早めに家族、医療関係者と相談している。夜間等緊急時についても迅速な対応が確保されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については家族の意向を重視し、話し合いながら個々の状況に合わせ、方向性を決めている。	現時点では、重度化や終末期の対応については、利用者、家族の意向を尊重していく方針で考えている。職員は、法人内での研修受講にはまだ至っておらず、体制も含め、今後の検討課題である。利用者、家族が望む、安心できる環境を整えていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応はマニュアルを作成し、マニュアルに準じて対応している。年1回の心肺蘇生法(AED含)講習を実施している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害時の地域との協力体制について構築できていない。	併設施設合同の避難訓練を実施している。消火機器の取り扱いや避難経路の確認、通報手順等、その都度確認している。地域の指定避難場所として活用が期待されるが、防災全般についての協力体制には、まだ、至っていない。早急な検討を考えている。	昨今、防災全般への意識も必要とされることから、運営推進会議等からでも、協力体制の必要性を積極的に訴えていかれることを望みたい。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況に合わせて言葉を選択し、言葉かけを行っている。呼称に関しては状況に応じた、本人が安心して頂ける形をとるようにしている。	法人内での接遇研修などでも、職員には周知に努めている。言葉かけに際しての声のトーンや、語尾についても注意を促し、職員個々への意識定着を図るようにしている。利用者一人ひとりへの理解を深め、周りの状況にも配慮することを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を伺う事を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に沿うように努めている。行事等の参加を促しているが、無理強いしないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人と一緒に選んで頂いている。理美容は訪問サービスにて本人の好みに応じられる様対応している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の運搬、盛り付け、片付けまでそれぞれの能力に応じた形で支援している。定期的ではないが外食の機会を設けている。	併設施設厨房で調理された物を、事業所で盛り付けている。利用者も一緒に盛り付け、配膳、後片付け等に関わり、職員からも声かけしている。手作りおやつや、移動パン屋さんでの買物、少人数での外食等の機会もあり、楽しみにしている人もいる。利用者のみの食事風景となっている。	手作りおやつ時間を、もう少し増やすなど、職員も一緒に作って食べる機会を、検討できないだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、形体の変更、大きさを考え食べやすい形で対応している。水分については個々の嗜好に近いものに変更したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い、能力に合わせた支援を行っている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要最低限の使用に努め、個々に合わせた製品を選択し使用している。	基本、トイレでの排泄としている。夜間のみオムツ使用の人はいるが、パットに変更した人もいる。声かけしたり、さりげなく誘導するなど、トイレに座ってもらうことを大事にしている。排泄用品のサイズ調整や適切な使用に努め、費用の負担軽減にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬以外の効果の期待できる飲み物を提供したり、医師、看護師と相談しながら対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、本人のニーズに合わせて入浴できるようにしている。	週2～3回を目安に入浴してもらっている。その時の希望を優先し、こちらから声かけしたり、入りたい時に入ってもらうようにしている。3日続けて入ったり、好みの入浴剤を入れたり、職員との会話を楽しみにしている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間の設定はせず、個々に合わせた対応をしている。リビングにはソファ、マッサージチェアを設置し、ゆっくりと過ごして頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬辞典を常備し、個々に知識を学べるようにしている。新しく処方された薬の副作用についても調べ、看護師の協力も得て本人の状態変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事の手伝いは、無理強いせず本人の状況に合わせて支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出がスムーズに出来るように配慮し、天候に合わせ、散歩、ドライブ、おやつ外出を実施している。	近隣を散歩したり、法人施設内の自動販売機で飲物を買ったり、好みの和菓子を買いに行くこともある。思い立って喫茶店に行きコーヒーを飲むこともある。誕生日に家族と外食することもあり、家族の協力も不可欠である。気候のいい時期は、できるだけ外に出よう心がけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で安心される方には、少ない金額で個々に管理して頂いている。外出時など能力に応じ支払いをして頂いている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設の電話を使用して頂いたり、入所後も継続して携帯電話を使用して頂いている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室、表札等の表示は判りやすいように工夫している。玄関、リビングは季節に応じた掲示を行っている。	中庭を囲んで、居室が並んでおり、廊下は日差しが差し込み明るい。リビングは、カウンターキッチンが備わり、ソファ、複数のテーブルで利用者は思い思いにすごしている。廊下の先には、掘り炬燵のたたみスペースがあり、個別に過ごせるスペースとなっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに個人用のいすを準備しており、気兼ねなく使用できる様にしている。自由に座って頂けるソファを設置しており、ゆっくりとくつろげる様にしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣向品、家族の写真を持ち参した頂き、本人の和める空間作りに努めている。	昔の婚礼家具を大事にしている人、お気に入りの椅子やテーブル、趣味の小物や絵、写真などを思い思いに飾っており、その人の生活の様子がうかがわれる。家族も一緒に過ごしたり、一人ゆっくりテレビを観るなど、居心地良く過ごしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ、適宜掲示物を変えたり、工夫している。危険個所に於いては身体拘束にならないようにセンサー等を設置し、安全に努めている。		